

■ 現在の中学 2 年生が受験する 2025 年からの「大学入学共通テスト」について、出題教科や科目の変更案が示された。

話題の中心は、「情報」の教科新設にあるが、肝心の大学がどう対応するかにかかっている。確かに「情報」は必修教科だが、では同じく必修教科である「家庭」や「保健体育」はどうか？ 実技的な内容を多く含むという意味では、「情報」も例外ではない。

「情報」については、パソコンやタブレットを活用することが適当としながら、現状では「端末など全国的に均質な受験環境の確保が難しいこと」、「機械的なトラブルを完全に排除できないこと」など公平性の観点から見送られて、マークシート式での出題にするというが、実技的な教科だからの困難性であり、その意味では、家庭科なども同様ではないのか。

バランスを欠くという印象があり、困難性を排除できないならば、いたずらに受験生の負担を増やすこともなかろうに。

まあ、これはどうでも良いか。

■ 問題は数学である。

数学では、現行の「数学Ⅱ、数学 B」が「数学Ⅱ、数学 B、数学 C」に変わることが、大きな変更ポイントである。

■ 今更の感もあるが、ここで、数学 A、B、C の項目を挙げておく。

数学 A (1) 図形の性質 (2) 場合の数と確率 (3) 数学と人間の活動

数学 B (1) 数列 (2) 統計的な推測 (3) 数学と社会生活

数学 C (1) ベクトル (2) 平面上の曲線と複素数平面 (3) 数学的な表現の工夫

いずれも、現行と同様に、「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする」とされている。

■ さらに、重要なこととして、学習指導要領解説編に

「数学 B」及び「数学 C」の履修については、「数学Ⅰ」を履修した後に履修するという規定を設けているが、「数学Ⅰ」以外の科目との履修の順序は規定していない。したがって、これらの科目については、生徒の特性や進路、学校の実態などに応じて、例えば、「数学 B」と「数学 C」を並行して履修することや「数学 B」を履修せずに「数学 C」を履修することなども可能である。

とされている。

このことから、共通テストにおいて、「数学Ⅱ、数学 B」以外に「数学Ⅱ、数学 C」が科目として必要になるということである。さすがにそれは煩雑だから、「数学Ⅱ、数学 B、数学 C」とひとまとめにしたのであろう。

■ これによって、数学 B、C の双方を履修するであろう理系生徒が、問題選択の幅が広がり、有利になる。

■ では、文系生徒はどうか。

a 「数学 B」だけを履修させる。

b 「数学 C」だけを履修させる。

c 「数学 B」「数学 C」の両方を履修させる。

の 3 パターンがありうるが、c はいささか負担が重かろう。

従来の名前だけの流れから a が多そうだが、b という選択はないのか？

先に挙げた内容を見てみると、教員側の教えやすさということ言えば、数 B より数 C に軍配が上がるのではないかと。C の(1)(2)を教えればよい。「複素数平面」はかつての「数学Ⅱ・B」での出題という前例がある。

数 B の「(2) 統計的な推測」は教えた経験がなく、敬遠したかろう(もつとも、理系で B、C 双方履修となれば、敬遠もできないのだが…)。

■ このように考えてみると、文系で「数 B でなく数 C」をという選択も現実味を帯びてくる。

そのときの問題の 1 つは、「(2) 平面上の曲線と複素数平面」の内容である。寄せ集め感のある単元だが、2 次曲線、曲線の媒介変数表示、極座標、複素数平面 までとなると、やや負担感がなくはない。

もう 1 つは、国公立大学の 2 次試験や私大の試験において、「大学がどのような指定をしてくるか」であり、これが一番大きい。

(文系で)統計学を学ばせる大学が増えてきているような気がするが、その流れからは、大学は「数 C より数 B」という選択をするかもしれない。

■ それにしても、数 A の「(3) 数学と人間の活動」数 B の「(3) 数学と社会生活」数 C の「(3) 数学的な表現の工夫」といった内容の問題まで、共通テストは作成するのだろうか。何ともご苦労なことだ。